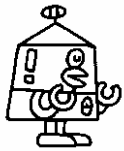


小 / 理科 / 5年 / 生物と環境 /
魚の卵の成長 / 理解シート

池の水を入れた水そうのメダカは、えさがなくても平気なの



池の水の中には、メダカのえさになる目に見えないほど小さい生き物がたくさんいるから、それを食べているのさ。

池の水を入れた水そうの内側には、もなどがついて緑色になってくる

メダカなどの生き物があると、えさの食べ残しやふんなどが、水中や水底に残ります。池の水には、これらを食べて分解してくれるバクテリアや、プランクトンとよばれる小さな生き物や、もなどがたくさんいます。水そうのかべやじゃりがぬるぬるして緑色になってくるのは、バクテリアやもなどがついたからです。

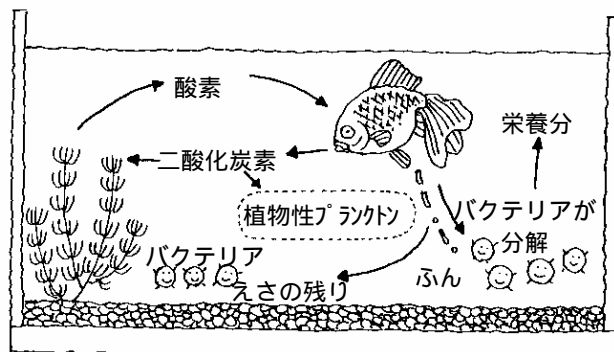
もは、植物のなかまです。明るい光があれば、どんどん成長していきます。

水中のプランクトンや、水草、水そうのかべなどにはえたもなどは、メダカのえさになるので、えさをあたえなくても平気なのです。メダカの数が多すぎたり、水そうが小さかったりすると、これだけではえさ不足になります。

水の中の小さな生き物は、食べ物や空気を利用しあっている

もや水草や、植物のなかまに入るプランクトンは、メダカ(魚)が出す二酸化炭素にさんかたんを取りこみ、呼吸こきゅうに必要な酸素さんそをつくってくれますし、えさにもなります。

メダカのふんなどをバクテリアが分解ぶんかいしたものは、もや水草、プランクトンなどの栄養分えいようぶんになります。水中の植物、動物、バクテリアなどは、おたがいに食べ物や呼吸に必要な酸素を利用し合って生きています。自然の池の中では、生き物たちは、おたがいにかかわりあって生きているのです。



水中の生き物のかかわりあい